

修 士 論 文 要 旨

看護学専攻 成人急性期看護学 分野	学籍番号 219609 氏 名 前川 晃大
論文題目	消化器内視鏡の洗浄・消毒に効果的な用手洗浄の研究
キーワード	十二指腸内視鏡、用手洗浄、ブラッシング、ATP、細菌検査
<p>【目的】 内視鏡の最終的な衛生管理である自動洗浄・消毒装置の効果を高められるためのより効果的な用手洗浄方法を検討することを本研究の目的とする。</p> <p>【方法】 内視鏡検査において汚染度が高く、構造的に複雑な内視鏡を使用する内視鏡的逆行性膵胆管造影法に使用された十二指腸内視鏡（オリンパスメディカルシステムズ JF-260, TJF-260）30本を対象とした。 A3法と細菌検査にて洗浄の評価を行った。A3法と細菌検査の採取は、十二指腸検査終了後(以下、検査終了後)、実践ガイドに基づいたブラッシング(以下、実践ガイド洗浄後)を終えた後、実践ガイド洗浄後に更にブラッシング5回追加(以下、5回追加)、更にブラッシング5回追加(以下、10回追加)の4回採取した。培養検体は、北里環境科学センターに郵送して、菌数測定、検出菌を簡易同定した。 A3法とコロニー数の分析方法は、検査終了後、実践ガイド洗浄後、5回追加後、10回追加後の4回採取した各群の中央値、最大値、最小値を算出した。4群間の検定にはFriedman検定をおこなった。そのうえで2群間の検定にWilcoxon順位検定をおこなった。培養によって検出された菌については、検査終了後、実践ガイド洗浄後、5回追加後、10回追加後において検出菌の種類、検出数を比較した。</p> <p>【結果】 A3法の中央値は、検査終了後、実践ガイド洗浄後、5回追加後、10回追加後の4群間に有意差が認められた。また、検査終了後と実践ガイド洗浄後、実践ガイド洗浄後と5回追加後、5回追加後と10回追加後のそれぞれ2群間において有意な低下が認められた。 コロニー数の中央値は、A3法の中央値同様に4群間に有意差が認められた。それぞれ2群間においても有意な低下が認められた。 細菌検査の結果は、腸内細菌群、グラム陽性球菌、コアグラレーゼ陰性ブドウ球菌、グラム陽性桿菌、グラム陰性球菌、ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌、黄色ブドウ球菌、酵母の8菌種を検出した。実践ガイド洗浄後にブラッシング回数を増やすことで検出される菌の数は減少した。</p> <p>【考察】 A3法の10回追加後の値は推奨値以下であり、最もコロニー数が減少した実践ガイドに基づいたブラッシングに加えて10回追加後の洗浄方法が、安全な消毒につながる洗浄が期待できる。細菌検査による検出菌の結果から、ブラッシング10回追加の洗浄による効果があったと考える。以上から、A3法によるATP、ADP、AMP値、細菌検査によるコロニー数や同定された菌種のいずれにおいても実践ガイドの洗浄方法に10回のブラッシングを追加した洗浄の方法が、内視鏡の最終的な衛生管理である自動洗浄・消毒装置の効果を高めるための用手洗浄であると考えられる。</p>	